

2018
8 / 3
Vol. 670



撮影・屋比久光史

あなたの夢を、暮らしを応援する住宅情報紙

SHIMPO housing guide

新報住宅 ガイド

こんな家に住みたい 第617回 那覇市 Aさんの家

自然素材ふんだんの家。
築後15年たって
見えてきたことと
変わらないもの

自然の力で住宅の機能と居心地を高める

毎週金曜日発行

週刊カフウ

「かふう」とは果報・幸運にめぐり合うこと。



<http://www.kahu.jp>

- 5. 伊礼智の「僕の好きな風景」
- 6. どうする住宅資金
- 10. 石獅子探訪記
- 11. Pick-up完成見学会
- 12. JSCA沖縄地区講演会 西村 章
- 14. 気になる土地の評価
- 19. かふう週報
- 20. ベット
- 21. ハイサイ「うちな〜ガーデン」
- 22. 空中散歩「天空から眺める美ら島風景」

琉球新報

発行/琉球新報社
〒900-8525 沖縄県那覇市泉崎1-10-3
Tel.098-865-5014

かふう

企画・編集・制作/(株)正広コーポレーション
〒900-0004 沖縄県那覇市銘苅1-11-9 3F
Tel.098-941-8112

軍用地買取ります

売主様とのお約束!

当社買取で、仲介料はナシ!!
年間100件以上の取引
実績で即断即決!!

カミヤプロ 検索

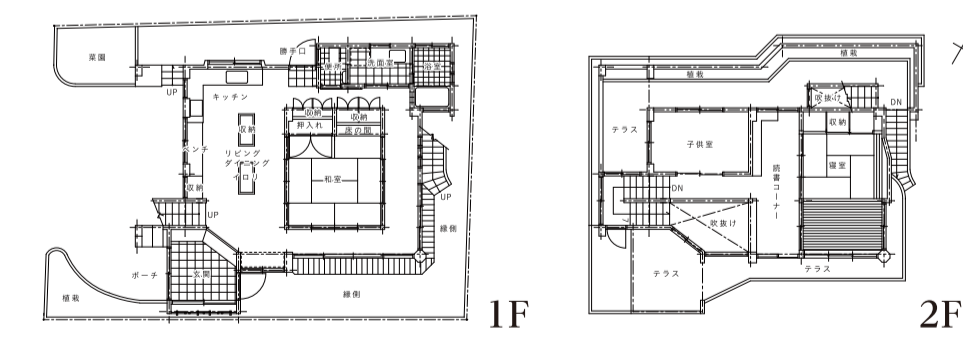
優良
売り物件
あります

沖縄県知事(2)4087号 沖縄県浦添市城間1-8-19 2F

カミヤプロデュース
tel.098-870-7777



家族構成：夫婦
所在地：那覇市
設計：一級建築士事務所アトリエガイ
(担当/佐久川一、佐久川達美)
敷地面積：176.22㎡(約53.30坪) 施工
建築面積：86.97㎡(約26.30坪) 建築/有限会社参建企画
延床面積：137.04㎡(約41.45坪) 電気/有限会社拓電エンジニアリング
用途地域：第一種低層住居専用地域 水道/石橋工業株式会社
構造：鉄筋コンクリート造2階建て ガス/沖縄ガス株式会社
完成時期：2003年4月 キッチン/Kitchen HOUSE



1. LDKで歌談。頭上の照明には琉球ガラスのオリジナルシェードを使用。階段の蹴込み部分は風の通り道 2. 屋上。新築時に設置した木製のパーゴラと柵は撤去しました。菜園では現在ピーナッツを栽培 3. 将来は機械ろ過機を置けるように、和室回りの廊下はゆったりした広さ 4. 玄関。土いじりに便利のように土間はタイル敷きに。右手通路から敷地南側の庭へ直接行くこともできます 5. 2階寝室。畳間の一部をフローリングにして書道スペースに 6. 2階テラスの植栽ボックス 7. 大勢の来客がダイニングに集まっても広々使えるようにキッチンはL字型に

こんな家に住みたい 第617回 那覇市 Aさんの家 自然素材ふんだんの家。 築後15年たって見えてきたことと 変わらないもの

子育てがほぼ一段落した時期に、老後までの生活を見据えて、以前の家を建て替えたAさんご夫妻。建築材料として自然素材や植物をふんだんに取り入れながら、通風、断熱などの面でも自然の力を上手に活用。生活しやすさを第一に間取りの構成を考え、それぞれが趣味を楽しめるスペースも随所に盛り込みました。あれから15年たった現在の住まいの状況と、ご夫妻の暮らしぶりを拝見しました。

那覇市内の落ち着いた住宅街。十数年間暮らした以前の家を、改修ではなく建て替えた最大の理由は、主に湿気の影響で著しく不具合が生じたため。当初は傷んだ箇所の修繕・改修を行うつもりで、知人づてに紹介を受けた建築家の佐久川一さんに相談しましたが、調べてみると被害の規模は想像以上。「これは応急処置では難しそうだ」との結論に達し、新居のプランニングを依頼しました。

Aさんが望んだ基本的なライフスタイルは、空調にできるだけ頼らない生活。「エアコンはもちろん、扇風機の風も苦手なんです」という奥さまの意向に従い、家全体に風が巡り、熱のこもらないプランを要望。これは同時に、長年悩ま

されてきた湿気の対策を、万全に行うことにもつながりました。またご夫妻ともに庭仕事や植栽の手入れが好きだったこともあり、自然を身近に感じ、自然素材を多用した家づくりをしたいと思いますという方向性もおのずと定まりました。

新居の設計を始めた頃は、既にある子ども2人は親元を離れ、一番下も高校生。間もなく迎える定年退職と将来の老後の生活を見据え、まずは自分たちの趣味を楽しめる空間づくりを優先しました。特にご主人は書道をたしなみ、時に長尺の作品をしたためるため、かなりのスペースが必要です。一方で料理と手仕事に興味の奥さまは、キッチンの広さ、使いやすさは当然として、「いざれ織機を用意し

て織物にチャレンジしたい」との構想を抱いていました。

こうしたお2人の希望やこだわりを建築士がすくい上げ、イメージを膨らませてラフスケッチにまとめ、それをもとに間取りやデザイン、材料などを煮詰めていきました。当時はまだ現役だったのになかなか考える時間が取れず、佐久川さんから提案を受けて検討し始めることがほとんどでした。それでも好みに合った木材を求めて、やんばるの山を一緒に巡ったりしましたね」とご主人は懐かしみます。打ち合わせには結局、

約1年間を費やしました。

家は生き物。
手入れをしながら
経年変化を楽しむ

Aさんの要望がどのような形で具現化したのか、一つ一つ確認していきます。

空気湿気がこもらないように、家中を風が巡る工夫は随所に見られます。開口部が多いのはもちろんのこと、駐車場に面した階段の蹴込み部分に開閉式の小窓を設けるなど、細かな仕掛けも散見。また敷地の高低差を生かし、地下収納をつ

くって高床式にして、1階フロアリングには換気口を整えました。間取りは玄関を上がると目の前にLDKがあり、その隣に和室が置かれています。和室の周囲はぐりりと廊下で回ることができ、しかも欄間部分が開いているため、障子戸を閉めてもフロア全体に空気が流れます。さらに玄関のすぐ脇にある階段回りは吹き抜けになり、高窓やテラスへ抜けていくように設計されています。

素材は木と漆喰をふんだんに使った点は、生活とともに物が増えた

ある雰囲気。和室の漆喰壁には、藁の代わりに月桃繊維をすき込みました。他にも月桃繊維を畳やふすま紙に使ったり、照明器具を竹で造作したり、野趣たっぷりの住まいに仕上がっています。

趣味の空間も充実し、ご主人の書道スペースは2階に設置。長尺作品の製作所は、書棚前の廊下を兼用させました。また1階和室回りの廊下は、機械ろ過機を置けるだけの広さにしてあります。

あれから15年。家の中で手を加えた場所はほとんどなく、変わった点は、生活とともに物が増えた

「家は生き物。こまめに手をかけてあげることが大切なんだと実感しています」とご夫妻は笑顔。そうした経年変化を楽しめる心のゆとりが、暮らしの豊かさにもつながっているようです。



光・風・人が循環する家。自然の力で住宅の機能と居心地を高める

西面採光の敷地で効率的な風の流れを考える
古民家の間取りをヒントに1階をレイアウト

建築家：佐久川一さん談

15年前の新築時は「寿の家」と題して発表した住宅作品です。子育て後の第二の人生を楽しむ夫婦2人のための住まいであり、それぞれの趣味や普段の暮らしぶりについてたくさん話をしながら、「自然素材や木をふんだんに使いたい」との要望をもとにプランを組み立てていきました。

Aさんが以前からお住まいだった家は、敷地西面が接道し、他の三方は隣家に囲まれた場所にありました。つまり十分な風通しや採光を確保するには、西面の効果的な使い方がポイントであり、一方で奥さまが望む「エアコンに頼らない生活」の実現のためには西日対策が不可欠です。設計時はまず、相反するこの2つの要素を調整することに腐心し、適切な開口計画を考えるとともに、前ページで触れていた階段の小窓や、床の換気口といった工夫を細部に盛り込みました。さらに2階寝室の屋根には芝生を張り、屋上の西端には花壇ボックスを造作して、お2人の趣味のスペースと兼ねて断熱にも役立ちました。

1階LDKに隣接して和室を置き、周囲に廊下を巡らせた間取りは、渡名喜島で見つけたある民家からアイデアを得たものです。一般的に沖繩の古民家では、一番座、二番座と裏座の間は壁で仕切られています。廊下のどこからでも出入りができ、「とても便利だ」と実感しました。そしてAさん宅では、和室回りの廊下に沿って、LDK・水回り・庭に通じる縁側を配置し、回遊性のある生活動線を形成しています。また和室と廊下の仕切りは、自然素材、風通し、といったキーワードを加味して、三辺ともに「紙一枚」で空間を調整できる障子戸にしました。すべて開け放てば、LDKとつながったワンルームになり、閉めても光や音、気配がほのかに伝わるので、閉そく感はありません。

全体的に温かみのある印象に仕上がっているのは、内外装ともに自然素材を中心に構成しているからこそ。県外海外で見た事例をヒントに、あるいはお2人との話し合いや暮らしぶりから着想を得て、木、漆喰、竹、土壁などを随所に活用しています。



1. 西側前面道路から見た外観。車の奥が床下収納にあたり、湿気対策として無双窓をつけて採光・通風を確保しています 2. 2階読書コーナー。書棚の上には採光・換気用の高窓を設置。手前の廊下は、時に書道の制作場所になります 3. 1階和室。月桃織り入りの壁、畳、ふすま紙をはじめ、障子に月桃紙を使うなど月桃を意識した素材構成。天井は竹材を編み、照明部分には一枚の紙をかぶせて間接照明に 4. キッチンから続く廊下は、左手に水回りが並び、右手の壁は収納スペースに

家づくりのヒント

一級建築士事務所
アトリエガイィ

宜野湾市真志喜3-21-11
Tel. 098-897-1379
<http://www.atelier-gaii.com/>
✉ gaii@soleil.ocn.ne.jp

自然素材は、全体的なデザインのバランスを整える上でも効果的

熟年夫婦が趣味を楽しむための家とあって、家中どこを見ても、こだわりの要素がもりだくさん。これをまとまりのあるデザインに納めるには、「ふと視線がいく場所に、落ち着いた雰囲気照明やワンポイントを配置するなど、ちょっとした心遣いが大切」と佐久川さんは指摘します。その際に自然素材は、「材料自体に自然で優しいテイストが備わっているので、空間になじみやすく使いやすい」とのことです。

